

2015年度 夏季研修会 報告

8月21日(金) 9時40分～ たかつガーデン コスモス



今年度の夏季研修会は、プール学院大学の松久眞実先生に、「思春期・青年期からみた 幼児期・学齢期の支援について～通常の学級における支援～」というテーマでご講演いただきました。受付が始まる前に多くの参加者が集まり、受付開始5分後にはほぼ受付が終了したという状態でした。先生方の関心の高さがうかがわれました。ご講演いただいた内容は、現場のニーズに直結するものであり、通常の学級に在籍する特別な支援を要する子どもたちをどう育てていくか、ということが大きな教育課題であると感じました。

ご講演の中身は、小学校・中学校で支援を受けてきた児童・生徒が、大学に進学してどう過ごしているかという話から始まり、通常の学級での支援の方法につながっていきました。具体的な事例をもとにお話をしていただき、事例あり笑いありのとても楽しく、明日の指導につながる有意義な2時間でした。

主な内容を記します。

- ・自閉症の人たちにとって、「定型発達者のワールド」というのは自分の感覚とは全く違うものであり、生きていくことに大きな困難がある。→自閉症のワールドを理解することが本当に大切である。
- ・通常学級での SST は、本人を伸ばすと共に、周りの子どもたちを伸ばしていくことで、本人にとって秩序のある居心地のいい学級になり、本人が落ち着いていく。
- ・リフレーミング—物事を見る視点を変えて、マイナスをプラスにとらえ直すこと。この手法を通して、クラスの子どもの視点を変えていく。
あきっぱい → 好奇心旺盛
いいかげん → こだわらない
- ・特別支援教育のハード面とソフト面、その両輪があってこそその支援。
ハード面—視覚支援、スケジュールの提示、教室の構造化
ソフト面—誉め方・叱り方、分かりやすいしゃべり方、教師を信頼・尊敬しているか
- ・表出している言動だけで判断しない。反抗的な態度に反応しない。
→同じ土俵に立たない。相手の挑発に乗らない。笑いで切り返す。毅然とする。
力で抑えず、低い静かな声でこちらに巻き込む。

また機会があれば、松久先生の様々なお話を聞かせていただきたいと思います。事例をもとにした、本当に分かりやすいお話で、感謝の気持ちでいっぱいのご講演会でした。参加された方のアンケート集約したものを別途まとめていますのでご覧ください。

今回、多くの方から参加申し込みがあり、定員いっぱいとなりました。一方、会場の定員の関係で参加できなかった先生方もいらっしゃり、申し訳ございませんでした。今後の研修会の運営及び申し込みなどについて検討していき、より良い研修会をめざしていきたいと思います。